

令和6年度 第1回宇和島市地域公共交通活性化協議会

議 事 要 旨

日時 令和6年6月26日（水） 14時00分～15時00分

場所 宇和島市役所 602会議室

出席 （委員） 西本委員、宮本委員、浅野委員、船田委員、吉川委員、田崎委員、
本田委員、田中委員、増田委員、山本委員、藤本委員、長野委員、
弓削委員、窪委員、西山委員、山口委員（順不同、敬称略）

（オブザーバー）愛媛県南予地方局地域産業振興部地域政策課 清家主幹（代理）

（事務局）宇和島市企画課：木原、末廣、牧野、古田

吉田支所：浅井、井東 三間支所：兵頭、今西 津島支所：梅村、清家

1 開会

2 会長の選任

- ・前会長であった玉田元委員が退任したため、委員の互選により新たに会長を選出するもの。
- ・委員からの立候補又は推薦
（委員） 本協議会の会長に、西本委員を推薦したいと思いますが、いかがでしょうか。
- ・拍手による採決を行い、賛成多数により承認。

3 会長あいさつ

4 議事

（1）協議事項

議案第1号 令和7年 地域公共交通計画（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）の認定申請について

- ・事務局より令和7年（令和6年10月1日～令和7年9月30日）の計画内容について説明。
- ・質疑応答
（委員） 対象路線が補助要件を満たさなかった場合に、補助金がゼロになるのか、何年か経てば補助金がもらえなくなるのか、仕組みを教えていた

だきたい。

(事務局) 補助金については、毎年路線別に審査されることになっている。

(委員) 補助を受けられなかった場合は、全額公費負担となるのか。また、運休するようにはならないのか。

(事務局) 住民の交通手段を確保するために運休とすることは難しい。補助金を受けられなかった場合は、全額公費負担となる。

・質疑応答後、拍手による採決を行い、賛成多数により承認。

議案第2号 宇和島市地域公共交通網形成計画に係る事業評価について

・事務局より計画の各目標の評価検証について説明。

・質疑応答

(一) 質疑応答なし。

・質疑応答後、拍手による採決を行い、賛成多数により承認。

議案第3号 地域モビリティ事業について

・事務局より事業の概要について説明。

・質疑応答

(委員) 日振島地区の運行・運行時間は地元と協議して決めた内容になるのか。

(事務局) 地元と協議して決めた内容。運転手が戸島地区の6名に比べ、日振島地区は4名であるなどの理由から、まずは戸島地区より少ない運行日時に始めることになった。利用者などから要望があれば、日時の拡大を検討していくことになる。

(委員) 日振島地区の対象者について、事業概要では日振島地区住民、申請書類では観光旅客を含む来訪者も対象となっているのはなぜか。

(事務局) 実証運行中は、原則として日振島地区住民を対象としている。今後、本格運行となれば観光旅客の来訪者も対象とする予定にしているため、申請書類では来訪者も対象としている。

(委員) 戸島地区の経費区分はどうなっているか。

(事務局) 実証運行中については、車両のガソリン代、運搬費、保険料等は市が負担していたが、本格運行開始以降は、運賃収入からガソリン代を地元協議会に支払っていただいている。

・質疑応答後、拍手による採決を行い、賛成多数により承認。

(2) 報告事項

○コミュニティバスの路線再編について

- ・事務局より、コミュニティバスの利用者数が減少しているため、地元住民等と協議し現状に即した形での運行となるよう再編を進めていくことを説明。
- ・質疑応答
 - (ー) 質疑応答なし。

○その他

- ・質疑応答
 - (委 員) 地域モビリティについて、蔣淵地区でも話し合いを進めているということを昨年度の協議会で聞いていたが、見通しとしてはどのような状況になっているか。
 - (事務局) 地元住民、地区社協と協議をしているところ。地域内の一部住民からは事業について問い合わせやご要望をいただいているが、地域全体としての意見の取りまとめをお願いしている。概要が固まれば協議していくことになるが、具体的にいつ頃からかということは決まっていない。
 - (委 員) 市内野川地区から、別当地区のようなデマンド型タクシーの運行について要望が出ている。野川地区だけでなく、大超寺奥など市内には交通不便地域が多くある。別当地区の利用者数が少なく採算が取れていないが、いまの便数があるのかどうか、別当の便数を減らすことができるのであれば、ほかの交通不便地域に回すことができるのか検討していただければと思う。
 - (事務局) 利用人数は少ないが、運転手が不足していることもあり、単純にほかの地区を運行することは難しい。別当地区の便数を減らしてほかの地区を走らせることについては、全市的に交通弱者の住民がいるため、要望のあった地区だけでなく、どの地区を走らせるかということを、全市の共通課題として考える必要がある。
 - (委 員) 乗務員や運行管理者が不足している。国から新しく認められた点呼方法を使って、少ない運行管理者で対応できるようにしていきたいと考えている。現状だと、いまの路線を今後維持していくことが厳しくなっているため、路線バス、コミュニティバス、デマンド交通など、どういった交通が必要なのか協議させていただきたい。突然路線が無くなるようなことがあれば、住民にご迷惑をおかけすることになるため、市には事前に協議させていただきたいと考えている。